

30年12月分 製品市場の荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成30年 12月1日～ 30年12月10日

2. 調査実施方法

全国の製品市場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
12月分の回答企業数は5社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/12月	31/1月	2月
入荷動向	国産材製材品	△ 10.0	△ 30.0	△ 30.0
	外材製材品	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0
	その他	—	—	—
販売動向	国産材製材品	0.0	△ 10.0	△ 10.0
	外材製材品	△ 12.5	△ 12.5	△ 12.5
	その他	—	—	—
在庫動向	国産材製材品	△ 40.0	△ 20.0	△ 30.0
	外材製材品	△ 37.5	△ 37.5	△ 37.5
	その他	—	—	—

・国産材、外材製材品の入荷動向は3カ月連続減少。

・国産材製材品の販売動向は12月の横ばいから1月、2月は減少に。外材製材品は3カ月連続減少。

・国産材、外材製材品の在庫動向は3カ月連続減少。

(2) 価格動向 Weight. D. I.

品目		30/12月	31/1月	2月
スギ	柱角 KD10.5×3	10.0	10.0	0.0
	柱角 KD12×3	10.0	10.0	0.0
	通し柱 12×6	0.0	10.0	0.0
	桁角	0.0	10.0	0.0
	母屋角	10.0	10.0	0.0
	タルキ	0.0	10.0	0.0
	間柱	10.0	10.0	0.0
	加工板	0.0	0.0	0.0
	ヌキ	10.0	10.0	0.0
	平割	0.0	10.0	0.0
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	0.0	10.0	10.0
	柱角 KD12×3	0.0	10.0	10.0
	土台角 10.5×4	20.0	20.0	10.0
	土台角 12×4	20.0	20.0	10.0
	通し柱 12×6	0.0	10.0	0.0
カマツ土台角10.5×4	—	—	—	
米マツ平角	0.0	0.0	0.0	
米マツ割物	25.0	25.0	50.0	
北洋エゾマツタルキ	0.0	0.0	0.0	
北洋アカマツタルキ	16.7	33.3	16.7	

・スギは柱角KD10.5×3、12×3、母屋角、間柱、ヌキがやや強含み。その他の品目は保合。

・ヒノキ土台角はやや強含み。柱角、通し柱は保合。

・米マツ平角横ばい、割物はやや強含み。
・北洋アカマツタルキは強保合。

モニターからのコメント

(荷動き)

- ・スギ、ヒノキの入荷動向は減少している。12月に入り28cm以下の製材用丸太が市場に入り出し需給は改善したが、例年よりも状況は良くない。製品によってはプレカット工場における集成材の使用が増えており、市場への出材が減っている。販売状況は総じて良くない。ヒノキ構造材の在庫は持ちたいところだが、入材待ちの状況が続いている。外材は仕入価格の高騰が止まった感があるが、仕入は慎重になっている様子（中部）。
- ・丸太の出材は秋口より順調になりつつあるが、大口加工工場への供給が優先され、中小製材工場にはまだ潤沢に流れず（中部）
- ・国産材の原木不足が続いている。特に小径木が不足している。外材はWW、ロシアアカマツの輸入量が減少（近畿）。

(価格動向)

- ・スギ正角KD(特等)10.5cm×10.5cm×3.0m 60,000円、スギヌキ(特等)1.3cm×9.0cm×4.0m 42,000円、スギタルキ(特等)3.65cm×4.5cm×4.0m 40,000円、ヒノキ土台角(特等)10.5cm×10.5cm×4.0m 55,000円（東北）
- ・東海地区（愛知、三重、岐阜）はスギの消費量が少ないため、構造材の価格は年間を通して価格差が少ない。12月も横ばい。米マツタルキの生産量が落ちているため、スギタルキがプレカットで使われるようになると、価格は上向くと思われる。横ばいで変わらず。ヒノキは柱(特に10.5cm×10.5cm×3m)、土台角は不足している。価格を上げたいところだが、消費側が弱く上げにくい状態。米マツは現状横ばい。国内米マツ製材メーカーの撤退により、数カ月後の相場に変動がみれる可能性あり。北洋エゾマツ、アカマツタルキは高値安定している（中部）。
- ・製品単価も横ばい。一部商品（胴縁、土台）は品薄状態で集荷に苦戦している。原木の玉不足のため、価格を上げて入荷は安定せず（中部）。
- ・ヒノキ柱角、土台角は原木不足によって価格が上昇する。米マツ割物は大手メーカーの製材業からの撤退の影響で、北洋アカマツ、WW間柱は輸入量減少により価格が上昇すると思われる（大阪）。